

# 2023年度 岡山県社会福祉士会事業報告

## 2023年度全体総括

本会が1993年に任意団体として設立されてから30年が経過いたしました。本会のこれまでの発展は、人間の尊厳と基本的人権を護るための実践、そしてソーシャルワーク専門職の発展のために活動してこられた諸先輩方のご尽力の賜物と感謝申し上げます。

2024年1月1日に能登半島地震が発生いたしました。亡くなられた方々およびご遺族の皆さまに深く哀悼の意を表しますとともに、被災されたすべての方々に心よりお見舞い申し上げます。被災地の復興支援のためにご尽力されている方々に深く敬意を表し、被災地の一刻も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

私たちが生きる社会は、4年近くに渡ったコロナ禍・戦争・物価高騰・災害の多発・地球温暖化、など人びとの命と暮らしが脅かされる状況が増えています。さらには少子高齢化・人口減少・貧困問題・虐待増加・政治不信などの諸課題について、課題解決に向けた本質的な取り組みが順調とはいえません。我々ソーシャルワーカーは『ソーシャルワークは、社会変革と社会開発、社会的結束、および人々のエンパワメントと解放を促進する、実践に基づいた専門職であり学問である。社会正義、人権、集団的責任、および多様性尊重の諸原理は、ソーシャルワークの中核をなす。』というグローバル定義を実践の拠り所とし、暮らしの困難を有する個人・家庭、さまざまな組織や地域・社会への働きかけをより一層力強いものへと変化させていかなければなりません。

ソーシャルワーク職能団体としてより機能強化して、これらの社会的課題に取り組んでいくためには、理事・事務局・委員会が一体となって活動していくことが欠かせません。こうした課題意識のもと2023年度は理事改選および執行体制の変化、中期計画（ももちゃんプラン）の実施、組織変革の本格的な協議・検討、委員会の枠を超えた4系列（基盤系・人材育成系・権利擁護系・SW系）での取り組みとして4系列会議、などを行ってまいりました。

これらを通じて「委員会活動の担い手が不足していること」「効果的・効率的に活動できる仕組みが求められていること」「楽しく・やりがいを持てる委員会活動にしていくこと」「社会的要請に応えられる組織へ変革していくこと」などの課題が挙げられました。課題解決に向けた対応策の1つとして2024年度中までに会全体での協議を進め、2025年度に組織再編を行っていく方針を確認しました。

そのほか2023年度に取り組んだ主要な事柄を以下に示します。

- ・事務局正職員化（本会・職員双方にとって安定的基盤を構築すべく3名を正職員化しました）
- ・準会員制度改革（通称「未来会員」とし無料化、養成段階の交流で新入会員増を目指します）
- ・若年層に向けたSWの魅力発信（ソーシャルワーカーデー・社会福祉士のお仕事紹介・ラジオ出演・パネル展示などを通じ若年層への発信を強化しました）
- ・法人後見開始（社会的ニーズに応える権利擁護体制構築へ向け2023年4月から開始しました）
- ・障害者差別解消法にもとづく合理的配慮義務化への対応（自治体等と連携をはかり研修等を強化しました）
- ・高齢者虐待防止に向けた社会的要請への対応（岡山県等と連携をはかり研修等を強化しました）
- ・第三者評価のニーズ増加への対応（岡山県内最多受審数、大幅な件数の伸びへ対応しました）
- ・子ども家庭福祉変革への対応（子ども家庭ソーシャルワーカー養成開始等の変革期へ対応すべく、記念講演会やフォーラムを通じて意識喚起および会としての取り組みへ機運醸成を図りました）
- ・地域を基盤としたSWの繋がり強化（東備地区会が設立されたほか、SWカフェ、視察研修などの取り組みを強化しました）
- ・能登半島地震への対応（岡山DWATを通じて被災地支援への参画、日本士会を通じた寄付金への協力を行いました）
- ・国家試験対策講座の強化（職能団体だからこそできる国家試験応援へ変革を開始しました）
- ・国家試験合格率の変化（2024年2月の国家試験では、従前の約2倍の60%近い合格率となりました。この変化を歓迎しつつ、本会の人材育成機能の一層の強化が求められます）